広告 企画・制作 毎日新聞社広告局

みどりの日

Special Interview

魅力を増す「身近なみどり」

5月4日はみどりの日。身近なみどりとして大きな役割を果たしている公園だが、
その歴史や最近の注目トピックス、さらに今後の展望はどうなっていくのだろうか、
数々の公園づくりに携わってきた涌井雅之さんに、キャスターの黒塚まやさんがインタビューした。

キャスター
黒塚 まやさん

造園家・
ランドスケープアーキテクト
涌井 雅之さん

公園は、持続的な未来の入り口

シーボルトも驚いた 江戸のみどり

黒塚 都市の中のみどりである公園。日本にはさまざまな公園がありますが、どんな歴史があるのですか。

涌井 日本における近代的な公園の制度は明治6(1873)年の太政官布達で始まりました。西洋に比べて歴史が浅いのですが、それは元々、日本の都市にはみどりが多かったからなのです。江戸時代、江戸を訪れたシーボルトらの外国人も「すばらしい庭園都市」と驚いたといいます。

黒塚 西洋と日本では公園の成り立ちが違うのですか。

涌井 歴史的にペストやコレラの大流行を経験した西洋では、公衆衛生上の目的で公園整備を進めてきた面があります。一方、日本の公園は地域の中で人が集まるようになった場所や、花見の名所などが公園になりました。

黒塚 日本では、みどりはあって当たり前だったのですね。

涌井 皮肉なことに、そのためにかえって都市計画においてみどりが担保されにくくなってしまいました。日本では近代的な都市が発達していくとともに、みどりが減っていったのです。

時代とともに 変わる公園へのニーズ

黒塚 その後、公園の重要性が見直されて、改めて整備されるようになったと聞いています。

涌井 戦後の都市計画では、小学校と児童公園などをセットにして各地区に配置していく、近隣住区論が主流となりました。各地域の人口が増えている時代は、秩序立てて公園を作っていくことが居住環境の向上につながったといえます。

黒塚 現代の公園づくりでは、求められるものも変わってきていますね。

涌井 現代の都市は均一ではなく、区画ごとにオフィス街や住宅地など性格が分かれています。しかも再開発があればにぎわいの中心が移り変わるので、子どもの少ない繁華街の中に、児童のための公園が取り残されているようなケースが生まれています。

黒塚 少子高齢化など、社会背景も変化しています。

涌井 公園には2つの機能があります。景観や環境保全に寄与し、災害時の避難場所になるなど公園が元来備えている「存在効用」と、高齢者の多い地域には高齢者向けの公園を設けるといった、利用者ニーズと合致した「利用効用」です。

公園が今持っている機能を侵すことなく、現状のニーズに即した対応をどうしていくべきか。それが都市公園に課されている一番大きな課題といえます。

各地に生まれる 新たな公園

黒塚 都市部と地方での公園のあり方もまた、違いがあるのでしょうか。

涌井 最近では、公園を拠点にして、自然や歴史、文化など地方の特色をアピールしていく自治体も出てきています。歴史的風土にマッチングした公園を作ったり、その中に観光案内所や物産の販売所、展示施設を設けるなどすると、地方創生にもつながるでしょう。

黒塚 各地でさまざまな取り組みが進んでいるのですね。

涌井 市民が公園の経営に積極的に関わっていくパークマネジメント型の公園が、世界的にも増えています。

黒塚 「公園を経営」ですか?

涌井 その公園は誰のものなのかと考えたとき、地区に住む人のためのもの、地域全体のものなど、答えが明確であることが重要です。「この公園はあなたのためのもの」と感じたら、花を植えたり安全管理に参加するなど、公園づくりに関わってみたくなるでしょう。

黒塚 自分たちが何をしたら、より良い公園になるのかという意識が芽生え始めているのですね。

みどりは 心の"栄養素"

黒塚 これから、日本の公園はどうなっていくのでしょうか。

涌井 日本は今後、豊かさを"求める"のではなく"深める"社会に変わります。成熟のベクトルを目指すわけですが、それには一人ひとりが知識と教養を高めるとともに、自分を支えてくれる居心地のいい場所があることも大切です。繁華街や自宅の近く、オフィス街の中心など、あちこちに心を開放できるようなみどりがあるといいですね。

黒塚 どのようなところに着目すると、公園の魅力をより深く感じられるでしょうか。

涌井 人類は自然のなかで進化し、森林から食料を得てきました。現代でも人はみどりを見ると、安らぎを感じることが科学的にも立証されています。戦争や災害で心に傷を負った人が、植物を育てることで、生きがいを見いだすこともあるそうです。みどりは都市の"お化粧"ではなく、人間が生きていくために必要な"栄養素"なんです。

産業革命以降の社会では忘れられがちだったのですが、人間は、自分自身が自然の一部でもあります。改めてみどりのなかで、鳥や虫の鳴き声を聞いたり生き物の営みを観察したりしてみてください。

黒塚 公園に行けば、いろいろな生き物と共生していることが実感できるのですね。

涌井 自然と人間を区分するのではなく、共生してなおかつ再生・循環できる社会が理想です。地球を枯渇させることなく、持続的な未来を築いていくための入り口のひとつとして、公園をとらえていただけるとうれしいですね。

くろつか・まや
神奈川県出身。キャスター。テレビ山梨、TBSニュースバードなどで活躍。BS11「報道ライブ21 INsideOUT」のキャスターを務める。

わくい・まさゆき
造園家・ランドスケープアーキテクトとして人と自然の空間的共存をテーマに活動。「ハウステンボス」のランドスケーププランニングや「愛・地球博」における会場演出総合プロデューサーなど、数々の作品や計画に携わっている。TDS「サンデーモーニング」コメンテーター。(一社)日本公園緑地協会副会長。

全国で進む 公園づくりの新たな取り組み

都市型公園

先進都市のリフレッシュ空間

中野四季の森公園(東京都中野区)

中野駅にほど近い、警察大学校跡地の広大な敷地を利用した再開発地域「中野四季の都市(まち)」の中心部にある公園。最新のオフィスビルや飲食店、大学のキャンパスに囲まれ、先進的な都市における安らぎの空間となっている。広い芝生が印象的な公園には、噴水やウッドデッキのスペースがあり、親子連れなど地域の人のほか、学生やオフィスで働く人らが思い思いにリフレッシュできる。周辺には有名な商業施設・スポットも多く、街歩きしながら立ち寄るにも便利だ。

黒塚さん 災害時の避難地として、仮設トイレを置く場所なども考慮されています。

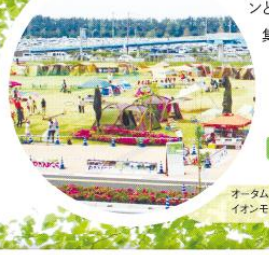
企業協働型

民間のアイデアで公園を楽しく

豊砂公園(千葉県千葉市)

幕張新都心の整備の一環として2013年開設。多目的に利用できる芝生を中心とした公園。大型ショッピングモールと向かい合って立地し、その運営会社がパークマネジメントも担当。官民一体となって、これまでにないにぎわいを生んでいる。薪能や夏祭り、巨大迷路型のイルミネーションといった鑑賞型のイベントや、有名店などを集めた飲食系イベント、またアウトドア・スポーツ系イベントなど、多彩な催しを開催し、大勢の人出を集めている。

涌井さん 買い物の間に、みどりの空間でくつろいで"仕切りなおし"もできます。



オータム・アウトドアイベント
イオンモール(株)提供

子育て

全天候で子育てニーズに応える

千秋が原南公園・子育ての駅千秋「てくてく」(新潟県長岡市)

2009年にオープンした緑あふれる千秋が原南公園には、全国初の試みとして、公園と一体となっている子育て支援施設「てくてく」が設けられている。寒冷地で雪も多い新潟県にあって、外で遊べない子供たちのために、屋根付きの広場など室内でのびのび遊べる場を提供している。さらに保育士が常駐しており、子育てに関する相談なども受け付けている。敷地内の空間も、公園と建築が一体的にデザインされており、魅力的な景観となっている。

黒塚さん 子供を遊ばせながら、お母さんたち同士、安心して一緒に話すこともできますね。

地域活性化

歴史ある運河を再生

富岩運河環水公園(富山県富山市)

富岩運河は、市内の歴史スポットとして知られていたが、周辺一帯を美しいウォーターフロントとして再整備した。開放的な雰囲気の園内には運河を中心に、展望塔を備えた「天門橋」や広場、野外劇場などさまざまな施設がある。さらに有名シェフ監修のフレンチや、ガラス張りのスターバックスの店舗が水辺を望むように営業しており、飲食とともに美しい景観が楽しめる。運河のクルーズや、夜間のライトアップなども好評で、観光客から周辺住民まで多くの人を集め活性化につながっている。

涌井さん こんな物語のある場所は、地方に住む人にとってひとつの人生の"劇場"になります。

"平成27年度「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会"開催

10/30(金)ニッショーホール・会議室(日本消防会館)にて
"平成27年度「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会"を
開催いたします。

第一部 午前 事例発表会　第二部 午後 全国大会

ご希望の方はどなたでもご参加頂けます。申し込み等詳細につきましては
一般社団法人日本公園緑地協会HP http://www.posa.or.jp/をご覧ください。

【お問い合わせ】 (一社)日本公園緑地協会 総務部総務課 TEL.03-5833-8551

都市公園コンクール 平成26年度 国土交通大臣賞受賞作品・団体紹介

都市公園コンクールとは

都市公園コンクールは、都市公園の設計、施工、材料・工法・施設および管理運営について特に優秀なものを表彰し広く紹介することにより、都市公園に関する技術水準の向上と新たな時代の都市公園の創造に寄与し、多くの人々により良い都市公園が提供されることを目的としたコンクールです。本コンクールは昭和60年から毎年実施しています。

平成26年度都市公園コンクール国土交通大臣賞受賞作品

福岡市動植物園再生事業
アジア熱帯の渓谷エリア設計
設計部門(小規模)
受賞団体:
- 株式会社都市計画研究所
- 福岡市動物園

町田市立野津田公園 陸上競技場
既存芝を活用した
スポーツターフのリニューアル
材料・工法・施設部門(大規模施設)
受賞団体:
- 日本体育施設株式会社

東山動植物園
アジアゾウ舎運動場整備工事
造園施工部門(大規模)
受賞団体:
- 株式会社本陣
- 名古屋市緑政土木局 東山総合公園

大手町の森
企画・独創部門
受賞団体:
- 東京建物株式会社
- 大成建設株式会社 一級建築士事務所

全国都市公園整備促進協議会

一般社団法人 日本公園緑地協会